

知らなきや損!!



経済指標とは!?!?

完全攻略

はじめに、投資において【**経済指標(ファンダメンタルズ分析)**】と言われても

「**難しいから勉強したくても何からして良いか分からない**」

「**別に知らなくても困らない**」

「**知った所で意味あるの？**」

など . . .

マイナスの意見を持っている人が多いかと思います。逆に、

「めっちゃくちゃ詳しくなりたい!!」

ってプラスの意見を持っている人の方が珍しいのではないのでしょうか？

自分がなぜ、経済指標の重要性を多くの人に伝えたいのか・

・それは、

【**投資市場(仮想通貨、為替、株など)は全て各国の経済(特にアメリカ経済)を土台として成り立っている**】

からです。

株を例に挙げるなら

景気が良い(インフレ)⇒企業業績好調⇒投資家心理で業績好調な企業の株価は上昇すると期待して買う
⇒

買いが集まる事で株価が上がる

または

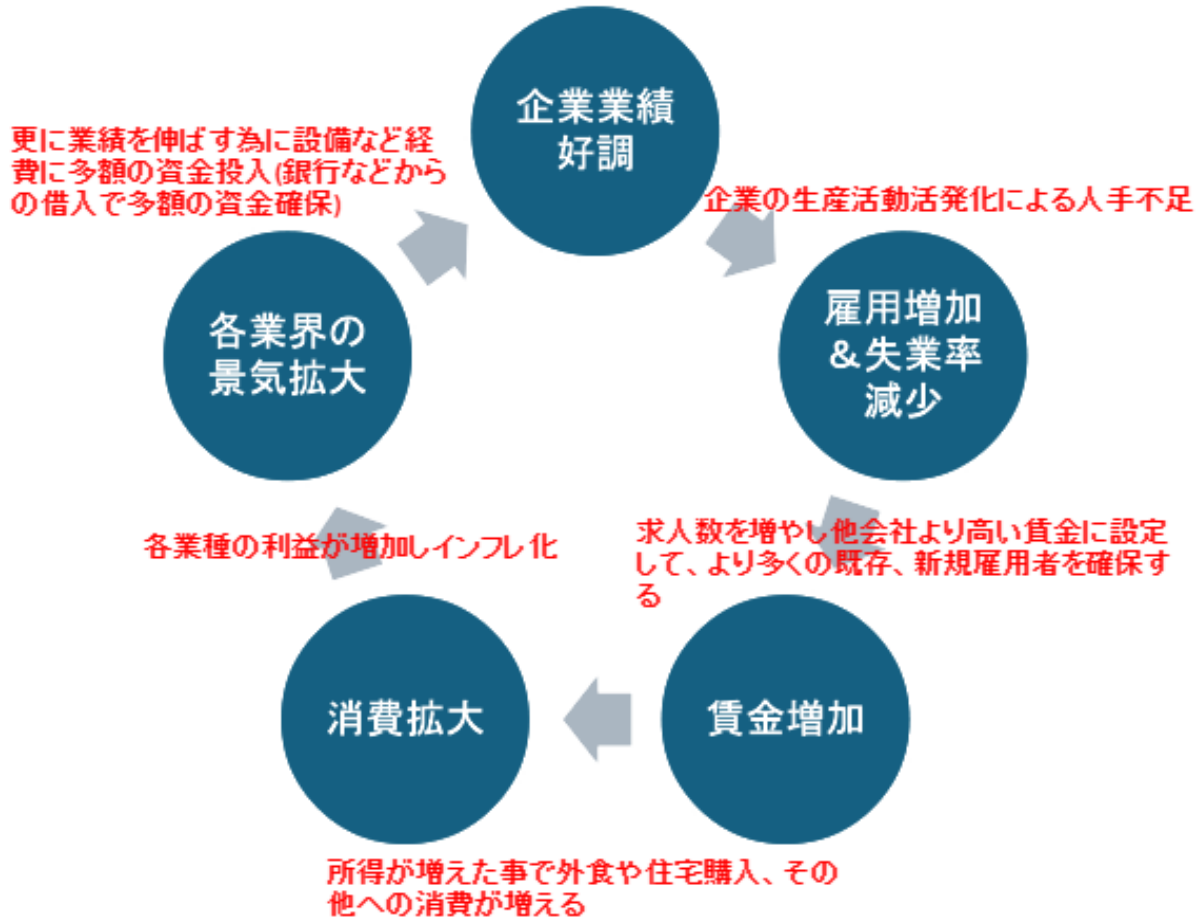
景気が悪い(デフレ)⇒企業業績悪化⇒投資家心理で業績悪化の企業の株価は下落すると悲観して売る⇒

売りが集まる事で株価が下がる

と言ったように全ては**経済の良し悪しに投資家心理が揺さぶられ**、それが反映されたのが**各市場の値動きに繋がる**訳です。

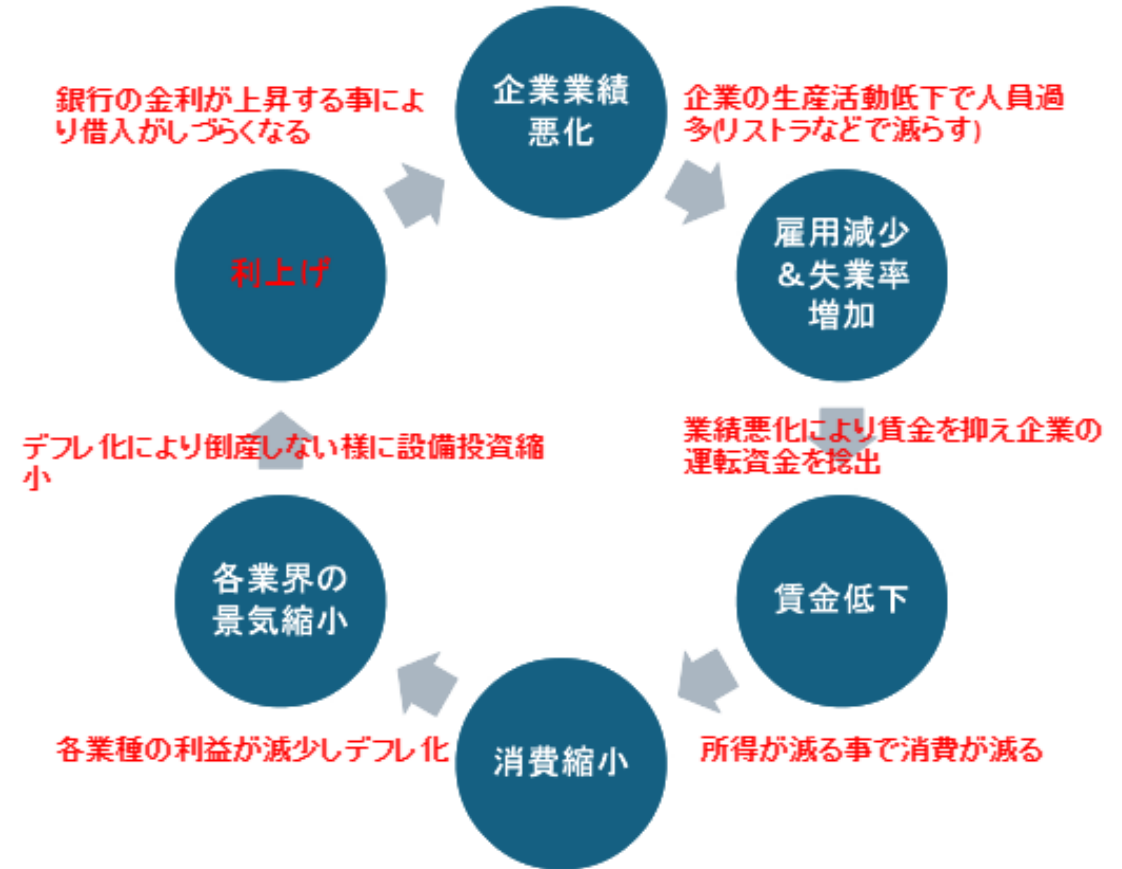
では、どうやって現在の**経済の動向**を把握し、今後の**経済はどの様に変化していくか**を予測したら良いのか？それこそが【**経済指標を理解する**】という事です。

インフレの仕組み



所得が増え急激に消費が増える事により商品の需要と供給のバランスが崩れ、商品の希少価値が高くなり物価が高騰する

デフレの仕組み



所得が減り急激に消費が減る事により商品の需要と供給のバランスが元に戻り、商品の希少価値が低くなり物価が低下する

インフレを抑制(景気をデフレ方向に向かわせる)為に利上げを行う※通常景気からデフレになる際は金融引締め(利上げ)はしない

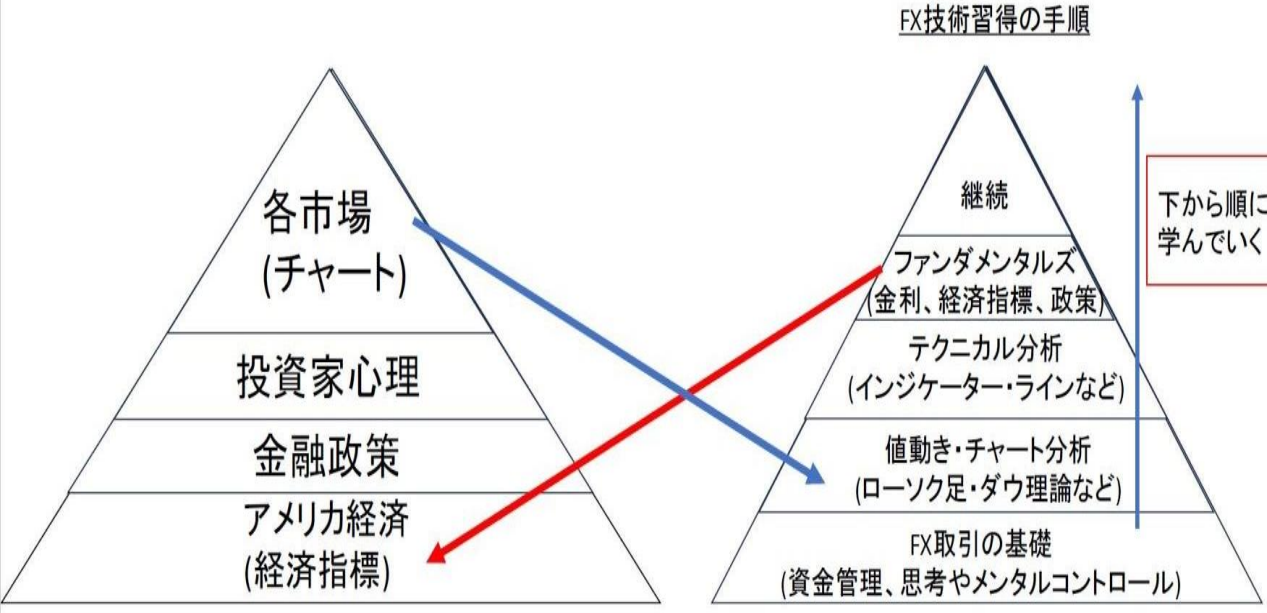
皆さんが見ているチャート(ローソク足)は、いわば【投資家心理(大衆心理)を映した鏡】

経済指標から現在の経済、今後の経済予測を読み解けるようになる事で周りの投資家心理の揺さぶりに巻き込まれないように先手を打って対応出来る様になるので指標発表時の無駄なトレード、無駄な損失を減らせるようになります。

FX技術習得の過程でもファンダメンタルズ分析は、ある程度の知識は必要で、

ファンダメンタルズ分析を身に付ける⇒各経済指標や要人発言、FOMCでの声明発表時、どのように投資家心理が動くか⇒値動きがどのように動くのか

を予測する事が出来るようになり、FX技術習得の序盤で学ぶであろう値動きやチャート分析(ローソク足)の知識を更に深められるかと思えます。



ここからは

- ・ **経済指標とは何か？**
- ・ **FXでの具体的な活用法**
- ・ **数多くある経済指標の中で特に重要な経済指標は？**

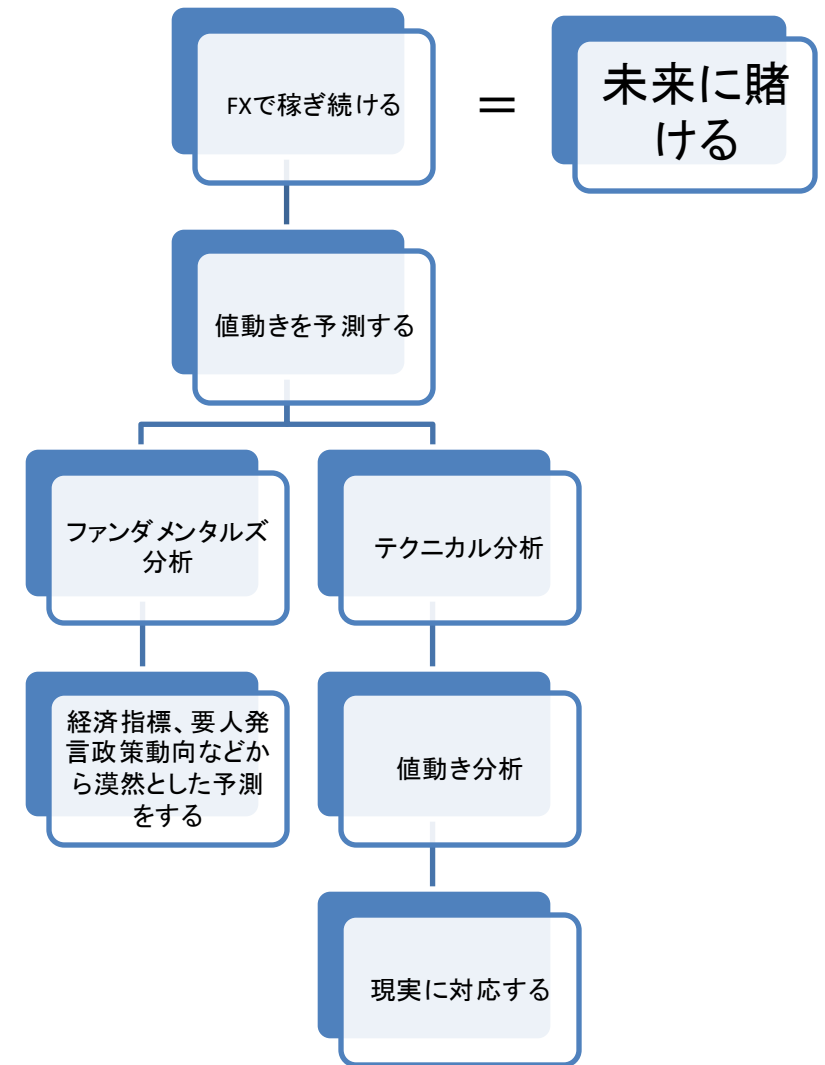
について順を追って解説していきたいと思います

～経済指標とは何か？～

経済指標とは、経済の健全性や成長の見通しを理解し、FRBがFOMCで経済政策(金融政策)を策定する際に参考にされます

また、投資家は市場動向を予測するためにこれらの指標を活用し、企業は市場環境を理解するためにもこれらのデータを活用します。

～FXでの具体的な活用法～



～数多くある経済指標の中で特に重要な経済指標は？～

国内総生産(GDP)：GDPは国家経済活動全体を測定し、経済の規模と成長率を示します。

GDPの変動は景気循環を理解するのに役立ち、政府の経済政策や企業の戦略に影響を与えます。

ADP雇用統計：ADP雇用統計は、雇用動向を示す重要な指標で雇用統計の先行指標とも言われています。

雇用統計とともに、アメリカの労働市場の状態を判断する重要な情報源の一つとなっています。

雇用統計：残業率や雇用者数、非農業雇用などの統計は、労働市場の健全性を示すために重要で、高い結果は消費者支出に影響を与えます

新規失業保険申請件数：新規失業保険申請件数は一旦給付を受ける為に政府機関に提出する申請数を示し失業率の先行指標として役立ちます。新規失業保険申請が急増する場合、経済的な困難や不況の事態である事を表します。

失業率：失業率は、労働力の中で雇用されていない人の割合を示す統計的指標です。

政策立案者(FRB)にとって重要な指標であり、雇用市場の現状を展望、経済動向を予測し、予想問題に対処するための重要な判断材料にもなっています。

消費者物価指数(CPI) : 消費者物価指数は物価の上昇率を示します。中央銀行の政策決定に影響を与え、一般的には安定した低いインフレ率を維持することが先に行われます。

生産者価格指数(PPI) : 生産者価格指数は、生産者が財やサービスを生産する際のコスト変動を示し、インフレの前兆となる可能性があり将来の物価変動を予測するのに役立ちます。

個人消費支出(PCE) : 個人消費支出は、国内総生産（GDP）の構成要素の一部であり、一国の経済活動における個人や家庭による消費支出を測定するために使用されます。経済分析や政府の政策決定において非常に重要な指標の一つです。経済が順調に成長(インフレ)している場合、通常はPCEも増加し逆に経済が減速(デフレ)している場合、PCEも低下することが期待されます。

貿易収支 : 貿易収支は、国が他国との貿易において輸出と輸入差を示します。

消費者信頼感指数 : 消費者信頼感指数は、消費者の知見や期待を測定し消費支出の動向を予測するために使用されます。高い信頼感は通常、消費支出の増加に繋がります。

小売売上高 : 小売売上高は米国宇様々な規模の小売店の売上を月毎に測定する指標で、個人消費がGDPの約2/3を占める米国では大変注目され同指標は個人消費や消費者信頼感指数とも相関性があり米国の景気を確認する指標として重要

鉱工業生産指数 : 鉱工業生産指数は米国の製造業、鉱業部門における生産動向を表しており米国における鉱工業の景気拡大・縮小の重要な指標で他経済指標と共に経済の転換点を早期に確認する為に使用し**鉱工業雇用、平均所得、個人所得にとって重要な指標**

設備稼働率 : 設備稼働率は米国の生産能力に対する生産量の比率(工場、炭鉱及び公益事業を含む)稼働率は経済全体の成長と需要を示しており**消費者物価指数(CPI)の先行指標**としての働きがある

住宅着工件数 : 住宅着工件数は景気に大きく影響を及ぼす住宅分野指標**新築住宅販売件数や中古住宅販売件数の先行指標**となっている

住宅建築許可件数 : 新たに建てる建築物で政府により許可された件数の事**件数の増減により住宅市場の景気の判断材料**になる為住宅市場にとって重要な指標であり**住宅着工件数の先行指標**としても注目されている

中古住宅販売件数 : 前月に販売された中古住宅件数を測定する指標で新築市場より規模が大きい**中古住宅市場の指数は住宅市場の景気を測る上で重要視**されている住宅市場は経済全体に与える影響が大きい為、国全体の経済状況を確認する上でも重要

新築住宅販売件数 : 前月に販売された新築住宅件数を測定する指標で住宅市場は消費に大きな影響を与える事から、**米国の景気の先行指標**として**中古住宅販売件数と共に重要**

個人所得：個人が受け取る所得の総額の増減を測定する指標で、個人所得とは給与・利子・配当の収入から社会保険料を控除した金額を指します
個人消費や消費者信頼感指数と相関性がありGDPの先行指標として重要

個人支出：自動車などの耐久財、衣類などの非耐久財、旅行などのサービス支出の3つを集計した指標
消費は米国のGDPで最も大きな要素でありGDPの先行指標として注目されている
しかし、これに先行して発表される小売売上高ほどは市場に影響を与えない事が多く
消費者信頼感指数とも相関性がある

耐久財受注：耐久財の新規受注総数の増減を測定する指標
高い数値は製造業者が活況である事を示すが、極めて予想が難しく製造業新規受注と共に改訂される事もよくある

ISM製造業景気指数：製造業における景況感を示す指標
主要指標の中で最も早く発表される事から景気の先行指標として注目され
指数は新規受注・生産・雇用・入荷遅延・在庫の5つの項目の総合指数になっている
50を中央値とし、50を下回ると景気後退、50を上回ると景気拡大を示す

ISM非製造業景気指数：非製造業における景況感を示す指標
ISM製造業景気指数と共に景気の先行指標として注目され事業活動・新規受注・雇用
入荷遅延・の4つの項目の総合指数になっている
ISM製造業景気指数同様、50を中央値とし、50を下回ると景気後退、
50を上回ると景気拡大を示す